



＜WICI ニュースリリース＞

報道関係 各位

第 2 回「WICI ジャパン統合報告表彰」の審査結果と表彰式

World Intellectual Capital/Assets Initiative(「世界知的資本・知的資産推進構想」以下 WICI)の日本組織である WICI ジャパン(事務局：東京都新宿区、会長 長友 英資)は、協力団体である「国際統合報告評議会(International Integrated Reporting Conference 以下 IIRC、英国ロンドン市、CEO:Paul Druckman)」が展開する事業報告の簡潔・明瞭化により事業体のステークホルダーとの双方向コミュニケーションを高め、事業体と社会の持続可能性を向上させようとする「統合報告活動(Integrated Reporting 以下＜IR＞)」に呼応し、その活動を日本において推進する方策として、「WICI ジャパン統合報告表彰制度」を 2013 年に創設し、「統合報告優秀企業賞」として、伊藤忠株式会社、オムロン株式会社および株式会社ローソンの 3 社を、また「Web 統合開示特別賞」として TOTO 株式会社および三菱商事株式会社を表彰させていただきました。

引き続き本年も第 2 回の審査を行いましたので、その結果を報告いたします。この 1 年間に企業報告の手法としてホームページによる Web 開示を基本にしつつ基本コンテンツとして統合報告書を作成することが一般化したことから、本年は「Web 統合開示特別賞」を設けず「WICI ジャパン統合報告優秀企業賞」に一本化いたしました。

◎「WICI ジャパン統合報告優秀企業賞」・・・印刷物としての年次報告書作成の伝統を承継しつつ、Web 開示を活用し、投資家向け報告あるいはCSR向け報告のいずれを基軸にするものであれ、財務・非財務のデータを統合し、少なくとも和文版と英文版を提供することにより、世界規模で、企業の価値創造活動を簡潔に示し、企業の将来が見通せるようにする統合報告を実践する企業として、次の 5 社を表彰いたします。

伊藤忠商事株式会社 オムロン株式会社 日本郵船株式会社、
株式会社堀場製作所 株式会社ローソン (アイウエオ順)、

第2回 WICI ジャパン「統合報告表彰」授賞式は、2014年12月4日(木)13:20~14:20に、大手町ファイナンシャルシティー カンファレンス・センターで開催する「WICI シンポジウム 2014」(プログラム等は WICI ホームページ: <http://www.wici-global.com/symposium2014/>)の行事の一環として執り行います。

WICI ジャパン会長 長 友 英 資
WICI ジャパン「統合報告審査委員会」委員長 鈴木 行 生

記

【審査目的】

事業報告の簡潔・明瞭化により事業体のステークホルダーとの双方向コミュニケーションを高め、事業体と社会の持続可能性を向上させようとする<IR>に呼応し、その活動を日本において推進する方策として、「WICI ジャパン統合報告表彰制度」を創設することにした。併せて、「統合報告」の発行体が広くステークホルダーから受けた評価を次年度の「統合報告」の制作に反映できるようにすることを、本表彰制度の主たる目的とし、「統合報告」「コーポレート レポート」「サステナビリティ レポート」「CSRレポート」「アニュアル レポート」等の名称の如何を問わず、2013年度の実績にもとづく年次報告として、2014年10月までに上場会社ないしこれに準ずる会社が発表したものを対象に勝手審査を行った。

【審査ポイント】

- 1) IIRCが定める<IR>フレームワークに定められた必須記載事項を反映して、当該発行体の価値創造ストーリーが簡潔明瞭に記されているか否か。
- 2) 過去の事業活動で達成された成果と残された課題が整理され、それと今期の実績との繋がりが明確にされていると共に、それを踏まえた将来の事業展開が、そのリスクと合わせて適確に見通せるようになっているか。
- 3) 営む各事業活動の価値創造ドライバーがKPIとして、経時的ないしピアグループ間で比較できるような形で提供され、KPIと開示する企業データとの繋がりが示されているか。
- 4) 事業活動の長期にわたる持続可能性を支えるコーポレート・ガバナンスが当該発行体に相応しい形で保たれているか。
- 5) 経営執行陣が自社の資本コストを自覚し、株主還元を含めそれを意識した経営に取り組んでいるか。
- 6) 企業の報告・開示は、主たるステークホルダーを意識するとともに、その他のステークホルダーに対しても、適確な開示メディアを選択活用してそれらの情報ニーズに応えているか。

【「WICI ジャパン統合報告表彰」審査委員会】

委員長 鈴木 行生(日本ベル投資研究所)
委 員 松島 憲之(三菱UFJモルガン・スタンレー証券)
清水 倫典(Gマネジメント アンド リサーチ)

川原 稔（株式会社バリューレイザー）
本多 淳（龍谷大学非常勤講師）
富田 秀実（ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッド）
光定 洋介（産業能率大学教授）
橋本 明夫（元バイサイド・アナリスト）
長田 清英（東海東京調査センター シニアグローバルストラテジスト）
宮永 雅好（株式会社ファルコン・コンサルティング）
神藤 浩明（日本政策投資銀行 設備投資研究所）
小西 範幸（青山学院大学教授）
與三野 禎倫（神戸大学准教授）
内山 哲彦（千葉大学准教授）
委員会事務局 花堂 靖仁、菊池 慶輔

【審査手順】

1) 委員会事務局が次の手順により予備審査を行った。

- ① 東京証券取引所市場第一部上場銘柄のうち 2014 年 8 月末日の時価総額上位 200 社をリストアップした。
- ② この 200 社について、上記「審査ポイント」に照らし、名称の如何にかかわらず WICI の「統合報告」に相当するアニュアルレポートと判断できる発行体として 146 社を選別した。
- ③ その他に、時価総額 200 社には含まれていないが「統合報告」に相当する年次報告書を作成していると判断できる発行体 6 社を加えた 152 社を「WICI 統合報告優秀企業賞（以下 優秀企業賞）」の予備審査対象第一次候補企業（以下、第一次候補企業）とした。
- ④ 上記②および③で選別した予備審査対象第一次候補企業について、上記の「審査ポイント」を「統合報告」の一般的な構成に応じた具体的な評価項目に分解し、委員会事務局が独自に作成した「WICI 統合報告優良企業審査シート（以下 審査シート）」により評価を行った。なお、同審査シートは、IIRC の「統合報告フレームワーク」を参照しつつ「WICI フレームワーク」を基本において作成した。
- ⑤ 「WICI 統合報告優良企業審査シート」による評価にもとづき、一定以上の評点を得た発行体から優秀企業賞の本審査候補企業 26 社を審査委員に提示し、本審査から除くべき企業ないし本審査に新たに追加すべき企業の有無を照会した。

2) 審査委員が次の手順により本審査を行った。

- ⑥ 審査委員から本審査候補企業についての削除・追加の申し出はなかったので、優秀企業賞の本審査候補企業 26 社を第 2 次審査対象企業として、審査委員が分担して審査シートによる評価を行い、最終審査候補企業 8 社を選定した。
- ⑦ 第 3 次審査では、最終審査候補企業 8 社について各審査委員がすべてを審査し、全員の審査評価シートが整ったところで、審査員が集い、審査委員長の司会進行のもと、最終審査会を催した。8 社について相対的に劣後のものを審査対象から除く方式で審査し、最終的に残った 5 社について再度慎重審査した結果、上記の 5 社を第 2 回の「WICI 統合報告優秀企業」として表彰することを決定した。

※第2回「WICIジャパン統合報告表彰」授賞式においでの際は、会場受付で取材の旨をお伝えいただき、お名刺を提出いただきますようお願い申し上げます。

【連絡先】WICI ジャパン事務局

〒169-8050 新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学大学院商学研究科 11 号館 1139 号室
西山 茂 研究室内

担当 花堂 靖仁(電話 090-3912-2729) 瀬川知恵子(電話 090-8728-8863)